

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	(試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)			
2	現金	30,000	現金過不足	30,000
3	備品	310,000	未払金	350,000
	消耗品費	50,000	当座預金	10,000
4	未収入金	985,000	有価証券	995,000
	有価証券売却損	10,000		
5	売上	30,000	売掛金	30,000
	引出金	24,000	仕入	24,000

・解説

1. (試験範囲の改定により試験範囲外となったため削除)

2. 現金過不足に関する問題です。

問題文の「現金の実際有高が帳簿残高より ¥ 30,000 過剰であることが判明した」から、実際有高のほうが帳簿残高よりも 30,000 円多いことが分かるので、同額だけ現金の帳簿残高を増やしてズレを調整します。

★解答仕訳

(借) 現金 30,000 / (貸) 現金過不足 30,000

現金過不足の仕訳を考えるさいは常に**実際有高に合わせる**のがポイントです。

現金過不足に関する問題は、第 110 回の問 4 や 第 111 回の問 4、第 115 回の問 1、第 117 回の問 1、第 133 回の問 4、第 135 回の問 1、第 142 回の問 5、第 147 回の問 1、第 150 回の問 3 でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 固定資産の購入と消耗品に関する問題です。

本問はまず、事務処理用パソコンと事務用文房具をきちんと分類できるかどうかが第一のポイントになります。

- ・事務処理用パソコン ¥ 300,000 : 備品
- ・事務用文房具 ¥ 50,000 : 消耗品

事務処理用パソコンに関しては備品で処理するだけですが、備品に限らず、建物や土地、車両などの固定資産を購入したさいに、**不可避免的に発生した費用（付随費用）は購入原価に含めて計算する**ので、本問の「**パソコンの設置費用 ¥ 10,000**」も購入原価に含めて処理します。

購入原価 = 購入代価 300,000 円 + 付随費用 10,000 円 = 310,000 円

事務用文房具に関しては、購入時に「消耗品で資産処理する場合」と「消耗品費で費用処理する場合」がありますが、本問は問題に列挙されている勘定科目の中に消耗品費がある（＝消耗品はない）ので、消耗品費で費用処理すると判断します。

★解答仕訳

(借) 備品 310,000 / (貸) 未払金 350,000  
(借) 消耗品費 50,000 / (貸) 当座預金 10,000

なお、購入した消耗品のうち、決算期末において使っていない分（未費消分）がある場合は、その分だけ消耗品費を消耗品に振替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考 1・決算期末において 10,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品 10,000 / (貸) 消耗品費 10,000

■参考・購入時に消耗品で資産処理した場合の仕訳

購入時に消耗品で資産処理した場合、決算期末において期中に使った分（＝購入分－期末に使っていない分）を消耗品から消耗品費に振替えます。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考 2・消耗品取得時の仕訳

(借) 消耗品 50,000 / (貸) 当座預金など 50,000

☆参考 3・決算期末において 10,000 円の未費消分があった場合の仕訳

(借) 消耗品費 40,000 / (貸) 消耗品 40,000

■消耗品の処理方法まとめ

- ・購入時に消耗品費で費用処理する場合
  - 購入時：消耗品費で処理する（本問で問われている仕訳）
  - 決算時：残っている分を消耗品に振り替える（参考 1 の仕訳）
- ・購入時に消耗品で資産処理する場合
  - 購入時：消耗品で処理する（参考 2 の仕訳）
  - 決算時：期中に使った分を消耗品費に振り替える（参考 3 の仕訳）

固定資産と消耗品がセットになった問題は、第 113 回の問 3 でも出題されているのであわせてご確認ください。

4. 有価証券の売却・未収入金に関する問題です。

帳簿価額と売却価額との差額を売却損益で処理しますが、購入時に手数料 20,000 円が発生しているので、購入原価（帳簿価額）は**購入代価＋手数料**で計算しましょう。

- ・購入代価：1,000,000 円 × @97.5 円 / @100 円 = 975,000 円
- ・手数料（付随費用）：20,000 円
- ・購入原価（帳簿価額）：975,000 円 + 20,000 円 = 995,000 円
- ・売却価額：1,000,000 円 × @98.5 円 / @100 円 = 985,000 円
- ・貸借差額：995,000 円 - 985,000 円 = **10,000 円**（帳簿価額 > 売却価額 → 売却損）

なお、売却代金はまだ受け取っていないので、未収入金で処理します。

有価証券の売却に関する問題は、第 102 回の問 5や第 110 回の問 1、第 116 回の問 5、第 118 回の問 1、第 126 回の問 4、第 131 回の問 1、第 142 回の問 4、第 147 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 売上戻り・自家消費に関する問題です。

本問は【売上戻りに関する取引】と【自家消費に関する取引】に分けて考えましょう。

#### ■売上戻りに関する取引

売上戻りに関しては、**売上時の逆仕訳**をするだけです。なお、売上戻りの金額を計算するさいには原価ではなく**売価**を使います。

$$\boxed{\text{売上戻りの金額} = @10,000 \text{ 円} \times 3 \text{ 個} = 30,000 \text{ 円}}$$

#### ★解答①

(借) 売 上 30,000 / (貸) 売掛金 30,000

#### ■自家消費に関する取引

問題文の「商品パッケージが著しく破損していたため、店主が自家消費することとした」というのは、例えば、戻ってきた商品の外装が破れてしまっていて売り物にならないので、自家用として使うことにした場合などがこれに該当します。

このような場合は**資本の引き出し**として処理するとともに、**原価分の仕入がなかったことにするために仕入の金額を減額**します。なお、減額する金額を計算するさいには**売価**ではなく**原価**を使います。

$$\boxed{\text{自家消費の金額} = @8,000 \text{ 円} \times 3 \text{ 個} = 24,000 \text{ 円}}$$

また、本問は問題に列挙されている勘定科目の中に引出金がある（＝資本金はない）ので、資本の引き出しは**引出金で処理**すると判断します。

#### ★解答②

(借) 引出金 24,000 / (貸) 仕 入 24,000

以上、①②をまとめると解答仕訳になります。

売上戻り・売上値引に関する問題は、第 100 回の問 1や第 114 回の問 3、第 144 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。